2019 年度　ペルー短期留学報告書

農学部・動物科学科・2 年・49218095・内藤 縁子

私がペルーでの短期留学に参加した目的は 3 つあります。まず 1 つ目はペルーが生息地であるリャマやアルパカが実際にどこでどのように暮らし、人々とどのような関わりがあるのか知りたかったからです。2 つ目に山岳地帯での生活や農業を体験してみたいと考えていたからです。また、一年次の共通演習の授業で麻薬について調べた際に、南米が麻薬の大きな生産地となっていることを知り、実際にどのような状況なのか見てみたいと思ったからです。３つ目は授業で習ったスペイン語を実際に使ってみたいと思ったからです。

1 つ目の目的であるリャマとアルパカについては、リマのラ・モリーナ国立農業大学での授業と学生交流で知ることができました。アルパカの毛を使った製品はリマの多くの店で見ることができ、人々にとって身近なものであることがよくわかりました。とても暖かく、日本にあるものよりもはるかに低価格でした。また、買い物をする際は日本とは違い価格交渉ができることを知りました。私がアルパカの毛でできたポンチョを買う際も、ラ・モリーナ国立農業大学の学生が価格交渉をしてくれて言い値よりも安く購入することができました。プカルパの市場では自分で価格交渉ができるようになり、日本では味わうことのできない買い物の楽しさを体験できました。また、大学の授業で、リャマやアルパカと似た動物としてビクーニャを習いました。はじめて聞いた動物でしたが、カハマルカの山岳地域でも実際に見ることができ、すぐに覚えることができました。

山岳地域での生活や農業についてはカハマルカで体験することができました。

まず、食事については、消化が遅くなるという理由でスープなどの食べやすいものが多かったです。また、リマやプカルパよりも乳製品が多いと感じました。使う食材にも高山病の予防になるものが入っていたりして、とても工夫されていると思いました。また、日本では牧草であるアルファルファがパチャマンカという料理につかわれていたり、リマではジュースに使われていたりしてとても驚きました。味はそれほどおいしいとは思いませんでしたが、現地の学生は寒い季節の定番の飲み物だと言って飲んでいました。

次に、カハマルカの市場に行きました。ここではウシやヒツジ、運送用に使うウマ、ロバの取引が行われていました。日本とは違い、相対取引が行われていました。つばが反り返った帽子をかぶっている人は自分で家畜を育てて市場まで売りに来ている農家で、つばの平たい帽子をかぶっている人は農家から買った家畜を市場に持ってきて売っている人というふうに帽子で職種が分けられていてとてもおもしろいと思いました。しかし、家畜を購入した後で健康状態の検査を受けることになっていると説明を受けて、買うときに見極めるのが大変だと思いました。

この後バラのグリーンハウスの見学に行きました。一つのハウスで数種類のバラの栽培が行われていましたがこれはとても難しいことだそうです。また、バラには連作障害が無いと説明を受けました。私は植物には連作障害があるものだと考えていたので、この説明を受けてとても驚きました。

昼食後は国立農業研究所に行きました。はじめに、種芋を栽培しているハウスの説明を受けました。ポットの中で無菌が保てるように育て、ハウスに植え替えてからも管理をする人しか中に入れないようになっていました。2 分間水がスプレーされ、5 分間休みという間隔で水やりが行われ、75 日、20 g が収穫の目安です。1 つの苗から 60～70 の種芋が

収穫できるそうです。また、この研究所では 11 種類の種芋を育てていて、需要の高い種を選んでいるそうです。次にトウモロコシについての説明を受けました。ペルーでは日本では見ることができない様々な種類のトウモロコシが作られていて、はじめは驚きましたが、毎度の食事にほとんど毎回出されるので、徐々に慣れていきました。ムラサキトウモロコシは茹でて色を出し、シナモンなどを入れてチチャという飲み物にされて出されました。私はリマとカハマルカでチチャを飲みましたがそれぞれ味が違いました。カハマルカの方があっさりしていて飲みやすいと感じましたが、どちらもとてもおいしかったです。また、黄色や白色のトウモロコシも数種類ありました。日本で売ってあるものよりも粒が大きかったです。水気が少なく、日本で食べるものよりも甘さは控えめでしたがとてもクリーミーで、はじめての食感でした。次にキヌアなどの作物が遺伝資源として保存されている所を見学し、その後牧草の説明を受けました。日本でも使われている牧草がたくさんあり、とても驚きました。また、ここでは牧草を育てている畑にウシが放してあり、そのウシを使って好みの草や踏まれることに対する草の強さを調べていました。今までに聞いたことがなくとてもおもしろい方法だと思いました。

この日の夜に、インカ帝国時代から続く温泉に入りました。日本の温泉とは全く違い、一人入るたびにそうじがされていました。シャワーなどはなくとても大きな浴槽がありました。お湯はとても熱かったです。

　ポルコン村の見学ではアンデスの伝統的な農業を体験することができました。セバスティアンさんのお宅で私は牛を使って斜面の畑にラインを入れる作業をさせてもらいました。斜面を歩くのは本当に大変で、片手で道具を持ってもう片方の手で牛に指示を出すのは本当に難しかったです。日本ではできないとても良い体験ができました。日本にも機械が入れないような斜面がたくさんあると思うので、動物の利用が進めばいいなと感じました。

さらに、斜面を下る際に馬に乗せてもらいました。日本では平らな地面でしか乗ったことがなかったので、初めての感覚を味わうことができました。その後同じ道を歩きましたがきつく、大変で、アンデスの生活の中での馬の重要性を実感しました。その後昼食にモルモットをいただきました。現地ではモルモットはクイと呼ばれていました。味は鶏肉に近く、とてもおいしかったです。

昼食後には斜面を下ってセバスティアンさんが飼っているウシを見に行きました。ウシは口がつながれていましたが、ほとんど放牧状態でした。セバスティアンさんが口のひもを外すとお孫さんがウシを誘導して、すぐそばの川の水を飲ませに行っていたのがとても印象的でした。この地域で飼われているウシはほとんどが乳牛で、機械は無いため朝の 4 時 30 分から手搾りで搾乳が行われます。集めた乳を缶に入れて指定の場所に置いておくと、乳業会社がトラックで収集に来ます。乳代は月で払われるそうです。この地域では赤クローバーと白クローバー、Dactylis、ライグラスカハマルキーノの 3 種類しか牧草が育たないため、ウマもウシも同じ物を食べていました。餌が少ないためウシは体が小さかったです。また、乳量も少ないそうです。餌を増やせば乳量は増えますが、この地域では牧草が収穫できる時期も限られており牧草が高価なため、乳量ではなく、牧草の保存を優先しているそうです。保存も日本のようにサイレージにするのではなく、刈り取りをせずにそのまま残してありました。

ポルコン村からの帰りに鉱山を見学し、説明を受けました。標高のとても高いところまで道が舗装されているのは、採掘業者が鉱物を運搬しやすくするためだそうです。しかし、採掘が始まる以前から住んでいた人のために舗装せずに残してある道もありました。また、道の周りの草地で燃やされている部分がありました。これは伝統的な農法で、雨期に新しい草が生えるように準備をしているそうです。

プカルパではまず、日本米の田を見学しました。日本は米を収穫するのに約 6 ヶ月かかりますが、ペルーは 3 ヶ月で収穫できるため、年に 4 回収穫されます。また、ペルーでは収穫後すぐに脱穀が行われます。田には雑草や害虫駆除のためにアヒルが放してありました。アヒルは人に慣れるため扱いやすいそうです。しかし成長すると稲を食べてしまうため、ある程度の大きさになると食べるそうです。

　またプカルパでは様々な植物が生活のために利用されていました。私はミトの果実を虫除けのために使いました。実を割って中の部分を腕に塗って使いました。時間が経つと、肌が徐々に青くなっていき、とてもおもしろかったです。

　私がプカルパで一番印象に残っていることは自分たちで調理をしたことです。私ははじめてウシの枝肉を人が食べられる大きさに切りました。またパイチェをおろすことにも挑戦しました。うろこが硬く、私はほとんど何もできませんでしたが、おろしたパイチェの身を取るのはとても楽しかったです。

実習以外では動物園や湖に行きました。動物園では日本では見たことのない色鮮やかな鳥がたくさん飼育されていました。湖では船に乗って対岸の船着き場に行きました。日本では見ることができない景色が見られてとてもよかったです。

3つ目のスペイン語を使うという目的はいろいろな所で達成することができました。1番スペイン語を使ったのは買い物をするときです。価格交渉や色を指定するときなどによく使いました。また、レストランで料理を注文する時にも使いました。自分の言った言葉が通じたときはとても嬉しかったです。

ラ・モリーナ国立農業大学のスペイン語の授業ではサルサを習いました。私は足のステップがなかなかうまくできませんでしたが、ペルーの踊りを踊っただけでも嬉しく、とても良い思い出になりました。

今回の留学で私の3つの目的は達成できました。

留学を通して様々な植物の説明を受け、興味を持ったので、これからは動物だけでなく植物についても学習していこうと思いました。また、英語とスペイン語の練習を続けていきたいです。

- 持って行ってよかったもの：スリッパ、サンダル、セーター、風邪薬
- 用意したがいらなかったもの：コンセントの変換プラグ、折りたたみ傘
- 現地で使用したおこづかいの金額：6 万円弱
- 事前に準備、勉強しておくべきこと
  - プレゼンテーションの練習
  - スペイン語の数字
  - 自分の学科以外のこと（研究所などで作物の話をされたときに話が理解できなかったため）